

# 大淵曾比奈の 逆杉

大淵の井上（曾比奈）に逆杉と呼ばれる大杉があります。この辺では塔婆を逆にさした塔婆が根付き大杉となったということですが、今回は逆杉のお話です。

## 村中で弔い

昔、大淵村井上の貧しい百姓夫婦に体格のよい男の子が生まれ、成長して相撲取りとなつて活躍しました。

息子のおかげで、夫婦の生活は豊かになりました。村人達は、これをうらみねたみしました。ところが、息子が突然急病で倒れ、相撲が取れなくなりました。夫婦の生活は、日一

昭和五十九年五月五日号



日と貧しくなり、あわれな最期をとげました。人をねたみうらんだ祟りで村に災難が続きました。そこで、夫婦の家の前に塔婆を逆に立てて村中で弔つたところ、前の明るい村にもどりました。この塔婆が根付き大杉となり逆杉と呼ばれています。

## 宇津木じんじの木

代々、この地に住む岩間正樹さんは、私から親から聞きついた話は、少し違うね。と語ってくれました。この大杉はね、もともと宇津木じんじの木（宇津木じいさんの木）と呼ばれててね、今から二百五十〜二百年程前、今の群馬県の方から宇津木さんという人が、このあたりに空木くわぎの木を買いにきていたそうだからある年大金をもって、大量の木を買い付けに来たとき、金めあての者に殺されてね。この殺され方がむごかったんだよ。これを部落の衆しゅうが、杉の塔婆たつばを逆に立てて弔なぐさつてやったんだよ。

宇津木じんじの怨念うんねんもあつてか、塔婆が根付いて大杉となつたんだよ。



曾比奈の逆杉